

【めざす児童像】

- ・ 学び続ける子
- ・ 自分を好きになり仲間を信頼できる子
- ・ 役に立つ喜びを感じられる子

夢への一歩

平成27年6月11日

1 春季体育会

5月23日の体育会には多くのご参加ありがとうございました。子どもたちへの温かい声援のおかげで、子どもたちは十分に練習の成果を発揮し、いきいきと活躍できたと思います。本当にありがとうございました。



← 躍動



↑ 心を一つに

2 学年通信から

「ほっぷすてっぷじゃんぷ」

1学年学級通信から

楽しかったよ！学校探検



↑ 校長先生はしゃぎすぎ

1年生の学級通信は、日々の日程や持ち物、宿題などを知らせるために、ほぼ毎日発行されています。今回紹介するのは学校探検の様子です。

昨日の2時間目は楽しみにしていた学校たんけんでした。2時間目になると、1年生の教室に2年生が迎えに来てくれました。ペアの子と手をつないで、仲良く教室を出発です。
(中略) 学校内を一通り回り終わると、ワークシートにはシールが一杯たまり、1年生は達成感で一杯でした。

「まんてん」

3年生学年だよりから

満天の星空の輝き

3年生の一人ひとりが、学習と遊びの両方で<満点>を目指して、<満天>の星空のような輝きはなってほしいという願いを込めて名づけました。お互いのいいところを認め合い、助け合い、協力し合い、みんなが「まんてん」の3年生にしていきましょう。

3年生では、毎日の家庭学習に「自学ノート」を提出しています。

通信では、ローマ字や漢字、計算ドリル等が紹介されていますが、とても丁寧に書いている児童がいて、いつも感心しています。

「ぼれぼれ」

4学年学級通信から

ぼれぼれはスワヒリ語

子どもたちが毎日楽しく安心して通える学級づくりを目指しています。子どもたちとがっつりとスクラムを組んで、あわてず、あせらず、着実に歩んでいきたいと考えています。そして、楽しいことも、うれしいことも子どもたちと一緒に経験し、分かち合ったり乗り越えたりしながら、共に成長していきたいと思えます。

学級通信のタイトル「ぼれぼれ」はスワヒリ語で「ゆっくり」「ゆったり」という意味があります。4年生のみんながやさしく和やかな気持ちで過ごせることを願って・・・。

1学期がんばること

- サッカーをがんばりたいです。なぜかというと、サッカーを上手になって柏木先生に勝ちたいからです。走るのも柏木先生に勝ちたいです。
- バスケットで柏木先生に勝ちたいです。

○先生と一緒に遊ぶことです。一緒に遊んだら先生との思い出がたくさんできるかなあと思ったからです。がんばることは、柏木先生にバレーで勝つことです。

※柏木先生には、ライバルがいっぱいいるようですね。



3 子どものやる気を伸ばす親の一言

旺文社 樋口裕一著から

挨拶はコミュニケーションの第一歩です。聞くことも話すことも挨拶から始まります。

挨拶は勉強の基礎であり、頭が良くなる基本の基本です。

□まず、家族が挨拶する

子どもに挨拶の習慣をつけさせようと思ったら、まずは家族に挨拶の習慣がなくてはなりません。

□ごめんなさいという習慣

大人でも、自分の非を認めず、言い訳ばかりする人がいます。

もし、子どもが「ごめんね」が言えず、過失に対して言い訳をしていたら、「ごめんねと謝ろうね」と教えましょう。

□保護者の最大の役割

子どもに好きなものに出会わせるのは、保護者の最大の役割です。

子どもは好きなものに出会うと変わります。いろいろなチャンスを子どもに与えてください。

□努力したプロセスをほめる

結果が良ければ最大限にほめます。ただし、ほめる対象は結果だけではありません。努力した過程をほめることも必要です。

□聞き上手な保護者

たいていの親は、自分と違う意見がでてくるとすぐに自分の話を始めてしまいます。

「小遣いを増やしてほしいんだけど」と聞かれたらあなたはどうか答えますか。

「私が子どもの頃はなあ・・・」なんて話は子どもは好きではありません。

「小遣いを増やしたいの?」

子どもの言葉を繰り返すだけでも、聞き上手になれますよ。



※正式な本の名前は、やる気を伸ばす父親の一言ですが、父親を親・家族・保護者等の言葉に読み替えています。

4 木曜日は定時退勤日

兵庫県教育委員会では、教職員が時間的・精神的にゆとりを持って児童と向き合うことで、教育のさらなる充実を図るように、様々な取組を進めています。



その一つの取組が週1回以上の「定時退勤日」を設けることです。

今兵庫県内の小学校には104名の精神疾患による病気休暇取得(教職員)がいます。言葉を変えると、過度な仕事等を主な原因として、「心の病」で休んでいる先生が兵庫県の小学校に100人以上もいる実態があるのです。

本校では、県教育委員会の指示に則り、定時退勤日を木曜日に指定していますが、残念ながら今、全ての先生が定時に帰る現状にはありません。子どもたちが帰った後も、授業の準備や「まるつけ」、また授業力を高めるための研修など先生方は大忙しなのです。

しかし、「疲れた表情で教壇に立って、子どもたちによい教育が出来るはずはありません。」「笑顔のない教師が明るい学級経営を出来るはずありません。」「また、「我が子とゆっくりに関われない先生が、学級の子どもの気持ちを深く理解できるとも思いません。」

そこで今後は、本校においても、定時退勤日の取組を積極的に進めることとします。

保護者・地域の皆様には、毎週木曜日の5時以降は、全教職員が不在となることもありますが、ご理解をお願いします。

5 子どもの素直な心

「校長先生、見とってよ」

私は子どもたちが大好きです。そこで、中休みや昼休みは出来るだけグラウンドに出て、子どもたちに声掛けをしています。「学校は楽しい?」と聞くと多くの子どもたちが笑顔で「うん」と答えてくれます。

低学年で流行っているのは、一輪車です。逆上がりなどの鉄棒にチャレンジしている子もいます。その子たちは決まって、「校長先生、見とってよ」と声をかけてきます。「よっしゃ、よっしゃ、見とったろ。」

「すごいやん。ようできるようになったなあ。」

転んで、ケガする子もいます。でも次の休み時間にはまた、練習しています。子どもたちはほめられたいのかな。

